

阿嘉島方言の動詞、形容詞の初期報告

日本学術振興会特別研究員 PD／国立国語研究所
横山晶子

1. はじめに

1.1 地理

阿嘉島は、沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉に属する(図1)。平成22年9月時点において、世帯数は166戸、人口は279名である¹。農業、漁業のほか、ダイビングを中心とした観光業が島の主要産業となっており、1年に8万人近くの観光客が訪れる。



図 1. 阿嘉島の位置

1.2 阿嘉方言

阿嘉方言は、琉球諸語－北琉球－沖縄－南沖縄方言に属する（琉球方言研究クラブ編 1990）。阿嘉方言の特徴として、(1) 1 音節 2 モーラ語において、他の沖縄諸方言に特徴的な $e \rightarrow i$ の変化が起きていないこと（例：[me:]「目」、[ke:]「毛」、(2) 軟口蓋摩擦音 ([k], [g]) において、他の沖縄諸方言に特徴的な口蓋化が起きていないことが挙げられる。

本稿で用いる音韻表記を以下に示す。母音には/a/i/u/e/o/の5つを認め、長母音は短母音の連続として表記する(例: /mee/[me:]). 半母音には/j/, /w/を認める。子音には/p/, /b/, /t/, /d/, /n/, /k/, /g/, /ʔ/, /m/, /N/[m~n~ŋ~N], /r/[ɾ], /s/[s~ɕ], /z/[z], /c/[tɕ], /ts/[ts], /h/[h~ç], /f/[ɸ]を認める。特に、音節主音となる鼻音を/N/, [ei]を/sji/, [dzi~zi]を/zji/, [tei]を/cji/と表記する。

¹ 座間味村インフォメーション <http://www2.vill.zamami.okinawa.jp/info/zamami.php>

2 動詞形態論

今年度は(1)断定肯定形、(2)否定形、(3)過去形、(4)シテ中止形(以下、継起形と呼ぶ)、(5)アリ中止形を、調査した。調査語彙の活用表を本稿末に添付する。

2.1 語構成

2.1.1 構造

動詞は語根に接辞が接続して形成される。現在までに分かっている相互承接順は(1)の通りである。時制接辞には具体的に(2)の接辞が、語尾接辞には具体的に(3)の接辞がある。

- (1) 語根－受動接辞－{丁寧接辞／継続接辞}－否定接辞－時制接辞－語尾接辞
- (2) 時制接辞：現在接辞、過去接辞
- (3) 語尾接辞：継起接辞、アリ中止接辞、連用接辞、直説接辞、連体接辞、意図接辞、禁止接辞、命令接辞、逆接接辞

2.1.2 接辞

現在までに分かっている接辞は表1の通りである。母音語幹に接続したとき、子音語幹に接続したときの具体例をそれぞれ挙げる。

表 1. 接辞の種類と例

	例(母音語幹)	例(子音語幹)
受動接辞 -ra/V_, -a/C_		sjik-a-ra-N「好かれない」
丁寧接辞 -jabi	ui-jabit-a-N「植えました」	
否定接辞 -raN/V_, -aN/C_	fu-ra-N「降らない」	tub-a-N「飛ばない」
条件接辞 1 -ree	ja-ree「～なら」	
現在接辞 -i/V_, -u/C_	fu-i-N「降る」	tub-u-N「飛ぶ」
連用接辞 -i	fu-i「降り」	tub-i「飛び」
条件接辞 2 -iNja	mi-iNja「見れば」	ninzj-iNja「眠ると」
過去接辞 -a	fut-a-N「降った」	tur-a-N「飛んだ」
継起接辞 -i	fut-i「降って」	tur-i「飛んで」
継続接辞 -oo		asr-oo-N「遊んでいる」
アリ中止接辞 -i	fut-i「降って」	tur-i「飛んで」
直説接辞 -N	fu-i-N「降る」	tub-u-N「飛ぶ」
連体接辞 -nu/ru	tsuku-i-ru「作る(もの)」	
意図接辞 -raa/V_, -aa/C_	koo-raa「買おう」	
命令接辞 -ri/V_, -i/C_	na-ri「なれ」	

禁止接辞 -runa/V_, -una/C_		kam- una 「食べるな」
逆接接辞 -sjiga	ja- sjiga 「けれども」	

2.2 動作動詞

2.2.1 規則動詞

規則動詞は、後接する接辞のグループ（2.2.1.1）によって、語幹（語根）末尾の音が規則的に交替する（2.2.1.2）。さらに、形態音韻規則（2.2.1.3）を経て、最終的な表層形が得られる。

2.2.1.1 接辞のグループ

語幹末尾音の交替に関して、接辞は大きく A, B, C に分類できる。以下に記載がない接辞は語幹末尾音の交替に関与しない。

A：否定接辞、命令接辞、禁止接辞、意図接辞、条件接辞

B：現在接辞、連用接辞、条件接辞（丁寧接辞？）

C：過去接辞、継続接辞、継起接辞、アリ中止接辞

2.2.1.2 交替の仕方

接辞グループごとの、語幹末尾が表2の通りに交替する。表3に、具体例として、接辞Aグループの否定形、接辞Bグループの現在形、接辞Cグループの過去形を挙げる。

表2. 接辞グループごとの、語幹末尾の交替

接辞のグループ	語幹末尾音 ²									
	V/N ³	#_i	b	m	n	s	t	g	d	d2
A	V/N	i	b	m	n	s	t	g	d	d
B	V/N	i	b	m	n	s	cj	zj	zj	zj
C	Vt/Nt	ccj	r	r	izj	cj	cj	zj	cj	t

² 今後の課題：(1) k 語幹の活用「引く」「抜く」などがどうなるか。(2) 語幹末 d グループと d2 グループが分かれる条件。(3) 語幹末母音グループの「食べる」の否定形（kwaraNではなく kwaaNとなる）の説明

³ 語幹末に N がある時に、母音語幹末と同じ振る舞いをする証拠として、「抜けなかった」nugi-raNt-a-N（抜ける-NEG-PST-IND）がある。

表 3. 接辞グループごとの、語幹末尾の交替（具体例）

	V	#_i	b	m	n
	降る	蹴る	飛ぶ	飲む	死ぬ
否定 -(r)a	furaN	kiraN	tubaN	numaN	sjinaN
現在 -i/u	fuiN	kiiN	tubuN	numuN	sjinuN
過去 -a	futaN	kiccjaN	turaN	nuraN	sjizjaN

	s	t	g	d1	d2
語根	落とす	待つ	漕ぐ	縛る	かぶる
否定 -(r)a	utusaN	muttaN	kugaN	kuNdaN	kaNdaN
現在 -i/u	utusuN	muccjuN	kuzjuN	kuNzjuN	kaNzjuN
過去 -a	utucjaN	muccjaN	kuzjaN	kuNcjaN	kaNtaN

2.2.1.3 形態音韻規則

上述のように語幹が交替した規則動詞は、さらに以下の形態音韻規則を経て、最終的な表層形が得られる。

- a) $r \rightarrow \emptyset / C_ :$ 子音後の r は削除される。
 (ex) kam + -runa $\rightarrow$ kam-una
 食べる PROH 食べる-PROH
- b) $N \rightarrow \emptyset / _ -N :$ -N 前の N は削除される。
 (ex) kam + -raN + -N $\rightarrow$ kam-a-N
 食べる NEG IND 食べる-NEG-IND

2.2.2 不規則動詞

不規則活用の動詞には、icjuN「行く」cjuuN「来る」suN「する」がある。現在までに分かっている不規則動詞の活用は、表 4 の通りである。

表 4. 不規則動詞の活用

	行く	来る	する
否定形 -ra	ikaN	kooN	saN
現在形 -ju	icjuN	cjuuN	suN
連用形 -i	iki	kii	sji
継起形 -i	?Nzji	ccji	sji
アリ形 -i	?Nzji	ccji	sji

過去形 -a	?NdaN	ccjaN	saN
--------	-------	-------	-----

2.2.3 存在動詞

現在までに分かっている存在動詞の活用は、表5の通りである。存在動詞は、動作動詞と比べ、(1) 現在形で現在接辞を取らない (2) 動作動詞ではとれるが存在動詞では取れない接辞（アリ接辞、恐らく継続接辞など）がある (3) 「ある」の否定、「ない」の否定がそれぞれ補充形になる、といった形態的特徴がある。

表5. 存在動詞

	ある	ない	いる
否定形	(neeN)	(aN)	uraN
現在形	aN	neeN	uN
連用形	?	?	?
継起形	ati	?	uti
アリ形	-	-	uti
過去形	ataN	neeNtaN	utaN

2.2.4 コピュラ動詞

コピュラ動詞は、補部に名詞、または非活用型形容詞をとる。

(4) {(名詞) / 非活用型形容詞} コピュラ動詞

コピュラ動詞には、補部に非活用型形容詞を取る*ja「～だ」が確認できている。否定の意味を表すコピュラ動詞に araN があるが(5)、これが*jaの補充形であるか、それとも別に*aがコピュラ動詞としてあるのか、まだ不明である。現在のところ分かっているコピュラ動詞の活用は表6の通りである。

- (5) waN kuruma=ja zjootoo=ja a-ra-N
 waN kuruma=ja zjootoo=ja a-ra-N
 1SG 車=TOP 立派=TOP COP-NEG-IND
 俺の車は上等じゃない。

表6. コピュラ動詞の活用

	ある	ない	いる
否定形	(neeN)	(aN)	uraN

現在形	aN	neeN	uN
連用形	?	?	?
継起形	ati	?	uti
アリ形	-	-	uti
過去形	ataN	neeNtaN	utaN

3 形容詞

形容詞には、屈折変化をする活用型形容詞と、屈折変化をしない非活用型形容詞がある。

3.1 活用型形容詞

3.1.1 活用型形容詞の構造

活用型形容詞の語構造は(6)の通りである。

(6) [形容詞語根 + sa] 語幹－語尾接辞

3.1.2 活用

現在までに分かっている活用型形容詞の活用は、表7の通りである。

表7. 活用型形容詞の活用

屈折	
終止形 -N	maa-sa-N「美味しい」
連体形① -nu	maa-sa-nu「美味しい〇〇（連体修飾）」「美味しいので（理由）」
連体形② -ru	maa-sa-ru「美味しい〇〇（連体修飾）」
条件形 -ree	maa-sa-ree「美味しければ」
過去形 -a	maa-sat-a-N「美味しかった」
理由形 -gutu	maa-sa-gutu「美味しいので」「美味しくくて」

3.1.3 派生

形容詞から副詞への派生には、2つの方法がある。

2.1.3.1 副詞化接辞

副詞化接辞-kuを用いる。-kuは、形容詞語根または形容詞語幹に接続し、形容詞全体を副詞化する。

- (7) *sooju iriree {maasaku / maaku} naisa*
sooju iri-ree maa-sa-ku maa-ku na-i-sa
 醤油 入れる-COND 美味しい-ADJ-ADVL 美味しい-ADVL なる-NPST-SFP
 醤油を入れれば、美味しくなるよ。

2.1.3.2 重複

形容詞語幹を重複し、助詞=tu を付ける。なお、重複された語幹末の母音は長音化する。

- (8) *sooju iriree masamasaa=tu naisa*
sooju iri-ree ma-sa-masa=tu na-i-sa
 醤油 入れる-COND 美味しい-ADJ-RED=QT なる-NPST-SFP
 醤油を入れれば、美味しくなるよ。

3.1.4 複合

形容詞語幹、または形容詞語根は名詞と複合する。

- (9) *maa-sa + munu*
 美味しい-ADJ + もの
 美味しいもの

- (10) *maagii + deekuni*
 大きい + 大根
 大きな大根

3.2 非活用型形容詞

非活用型形容詞は、活用しない。述部に立つときは、コピュラ動詞の補部となり、コピュラが屈折を担う。この点、名詞と振る舞いが非常に似ているが、(1) 形容詞の類型的要点を満たしていること、(2) 幾つかの点で名詞と異なる振る舞いをすることから、名詞とは別のカテゴリーの、形容詞の一部と考える。

3.2.1 形容詞の認定要件

通言語的に、形容詞は名詞や動詞ほど明瞭な文法カテゴリーではないと言われる。何故なら多くの言語において、形容詞は動詞的な側面と名詞的な側面を持ち、形容詞のみに認められる文法機能は存在しないからである (Hajak 2016)。こうしたなか、Dixon (2016)

はすべての言語において形容詞を動詞や名詞から区別できるとし、以下の4つを典型的な形容詞の特徴として挙げた。Dixonによると a, b は殆どの言語、c, d は一部の言語に当てはまる。

- a. 形容詞は一項文の述語 (intransitive predicate) として機能するか、コピュラの補部 (copula complement) となる。
- b. 形容詞は名詞句の修飾部に立つ。
- c. 形容詞は比較構文を形成する。
- d. 形容詞はそのままの形、または派生して動詞を修飾する。

a について (11) のように、非活用型形容詞はコピュラの補部となる。

- (11) *kinoo=N gaNzjuu jat-a-N=roo*
kinoo=N gaNzjuu ja-a-N=roo
 昨日=ADD 元気 COP-PST-IND=SFP
 昨日も (お爺ちゃんは) 元気だったよ。

b について (12) のように、非活用形容詞は名詞句の修飾部に立つ。

- (12) *gaNzjuu-na taNmee mi-iNja us-sa-N=doo*
gaNzjuu-na taNmee mi-iNja us-sa-N=doo
 元気-ADJ お爺さん 見る-COND2 嬉しい-ADJ-IND=SFP
 元気なお爺さんを見ると、嬉しいよ。

c については、まだ例文を取れていないが「A より B の方が *gaNzjuu*」といった文は恐らく可能であろう。

d については、そのままの形、もしくは副詞への派生接辞 *-ni* を付けて、動詞を修飾している。

- (13) *taNmee=ja utat-oot-i=N niNzj-iNja gaNzjuu na-i-N*
taNmee=ja uta-oo-i=N niNg-iNja gaNzjuu na-i-N
 お爺さん=TOP 疲れる-CONT-SEQ=ADD 寝る-COND2 元気 なる-NPST-IND
 お爺ちゃんは疲れていても、寝れば、元気になる。

- (14) *tunai=nu warabaa=ga gaNzjuu-ni asur-oo-N*
tunai=nu warabaa=ga gaNzjuu-ni asur-oo-N
 隣=GEN 子ども=NOM 元気=ADVL 遊ぶ-CONT-IND
 隣の子供が、元気に遊んでいる。

以上より、阿嘉島の非活用型形容詞は、類型的に提案されている形容詞の要件を満たしている。

3.2.2 名詞と異なる振る舞い

非活用型形容詞はコピュラ動詞の補部となる点で名詞と同じであるが、名詞修飾の位置に立つときの振る舞いが異なる。

名詞が名詞修飾の位置に立つときには、属格助詞=*ga/nu* を取るが、非活用型形容詞が名詞修飾の位置に立つときは、連体接辞=*-na* を取る（これは、動詞の連体接辞=*-nu/ru*とも異なる）。

- (15) *meeniN jaccji=ga kee=nu mii utus-u-N*
meeniN jaccji=ga kee=nu mii utus-u-N
 毎年 兄=NOM 木=GEN 実 落とす-NPST-IND
 毎年兄が、木の実を落とす。

- (16) *gaNzjuu-na taNmee mi-i-N=ja us-sa-N=doo*
gaNzjuu-na taNmee mi-i-N=ja us-sa-N=doo
 元気-ADJ お爺さん 見る-NPST-IND=TOP 嬉しい-ADJ-IND=SFP
 元気なお爺さんを見ると、嬉しいよ。

3.2.3 非活用型形容詞（述部）の活用

非活用型形容詞がコピュラの補部に立った時、述部全体の活用を表8に挙げる。

表8. 非活用型形容詞述部の活用

意味	
終止	<i>gaNzjuu jaN</i> 「元気だ」
連体 -na	<i>gaNzjuu-na</i> 「元気な」
条件	<i>gaNzjuu jaree</i> 「元気なら」
過去	<i>gaNzjuu jataN</i> 「元気だった」
理由	<i>gaNzjuu jagutu</i> 「元気だから」

4 おおきなかぶテキスト（昨年度調査分）

- (1) *?NNmee=ga deekuni ui-jabit-a-N*
 お爺さん=NOM 大根 植える-POL-PST-IND
 お爺さんが大根を植えました。

- (2) ama-sa-nu ama-sa-nu deekuni=Nkai na-ri=joo
 甘い-ADJ-ADN 甘い-ADJ-ADN 大根=?<に> なる-IMP=SFP
 甘い甘い大根になれよ。
- (3) magi-sa-nu magi-sa-nu deekuni=Nkai na-ri=joo
 大きい-ADJ-ADN 大きい-ADJ-ADN 大根=?<に> なる-IMP=SFP
 大きな大きな大根になれよ。
- (4) ama-sa-nu gaNzjuu-na
 甘い-ADJ-ADN 頑丈-ADN
 甘い元気のよい。
- (5) deezji=na magii+deekuni=nu deki-jabut-a-N
 大変=な 大きい+大根=NOM 出来る-POL-PST-IND
 とてつもなく大きな大根が出来ました。
- (6) ?NNmee =ja deekuni hicjinuzj-u-N=di sabit-a-N
 お爺さん=TOP 大根 引き抜く-NPST-IND=QT する.HON-PST-IND
 お爺さんは大根を引き抜こうとしました。
- (7) urijaa harijaa
 INT? INT?
 うんとこしょ、どっこいしょ
- (8) ja-sjiga deekuni=ja nugi-jabi-ra-N
 COP-CNN 大根=TOP 抜ける-POL-NEG-IND
 ところが大根は抜けません。
- (9) ?NNmee =ja paapaa ju-ri+ccj-a-N
 お爺さん=TOP お婆さん 呼ぶ-INF+来る-PST-IND
 お爺さんはお婆さんと呼んで来ました。
- (10) paapaa=ga ?NNmee hippat-i
 お婆さん=NOM お爺さん 引っ張る-SEQ
 お婆さんがお爺さんを引っ張って、
- (11) ?NNmee =ga deekuni hippat-i

お爺さん=NOM 大根 引っ張る-SEQ
お爺さんが大根を引っ張って、

- (12) urijaa harijaa
INT? INT?
うんとしょ、どっこいしょ

- (13) ja-sjiga deekuni=ja nugi-ra-N
COP-CNN 大根=TOP 抜ける-NEG-IND
けれども大根は抜けない。

- (14) paapaa=ja ?Nmaga ju-ri+ccj-a-N
お婆さん=TOP 孫 呼ぶ-INF+来る -PST-IND
お婆さんは孫を呼んで来ました。

- (15) ?Nmaga =ga paapaa hippat-i
孫=NOM お婆さん 引っ張る-SEQ
孫がお婆さんを引っ張って、

- (16) paapa=ga ?NNmee hippat-i
お婆さん=NOM お爺さん 引っ張る-SEQ
お婆さんがお爺さんを引っ張って、

- (17) ?NNmee =ga deekuni hippat-i
お爺さん=NOM 大根 引っ張る-SEQ
お爺さんが大根を引っ張って、

- (18) urijaa harijaa
INT? INT?
うんとしょ、どっこいしょ

- (19) naara naara deekuni=ja nugi-ra-N
まだ まだ 大根=TOP 抜ける-NEG-IND
まだまだ大根は抜けない。

- (20) aNsaani ?Nmaga=wa iN ju-ri+cj-uu-N
そこで 孫=TOP 犬 呼ぶ-INF+来る -NPST-IND

そこで、孫は犬を呼んでくる。

- (21) paapaa=ga iNnoo hicj-i
お婆さん=NOM お爺さん 引く-SEQ
お婆さんがお爺さんを引き、
- (22) naara naara nugi-raNt-a-N=doo
まだ まだ 抜ける-NEG-PST-IND=SPF
まだまだ抜けないよ。
- (23) iN=nu maja ju-ri+cj-uu-N
犬=NOM 猫 呼ぶ-INF+来る-NPST-IND
犬が猫を呼んで来る。
- (24) maja=nu iN hicj-i iN=nu ?Nmaga hicj-i
猫=NOM 犬 引く-SEQ 犬=NOM 孫 引く-SEQ
猫が犬を引き、犬が孫を引き、
- (25) ?Nmaga=nu paapaa hicj-i paapaa=ga ?NNmee hicj-i
孫=NOM お婆さん 引く-SEQ お婆さん=NOM お爺さん 引く-SEQ
孫がお婆さんを引き、お婆さんがお爺さんを引き、
- (26) ja-sjiga deekuni=ja nugi-raNt-a-N
COP-CNN 大根=TOP 抜ける-NEG-PST-IND
けれども大根は抜けなかった。
- (27) majaa=nu weNcju ju-ri+ccj-a-N
猫=TOP 鼠 呼ぶ-INF+来る-PST-IND
猫は鼠を呼んで来た。
- (28) weNcju=nu majaa hicj-i majaa=nu iN hicj-i
ねずみ=NOM 猫 引く-SEQ 猫=NOM 犬 引く-SEQ
ねずみが猫を引き、猫が犬を引き、
- (29) iN=nu ?Nmaga hicj-i ?Nmaga=nu paapaa hicj-i
犬=NOM 孫 引く-SEQ 孫=NOM お婆さん 引く-SEQ
犬が孫を引き、孫がお婆さんを引き、

(30) paapaa=ga ?NNmee hicj-i
 お婆さん=NOM お爺さん 引く-SEQ
 お婆さんがお爺さんを引き、

(31) urijaa harijaa
 INT? INT?
 うんとこしょ、どっこいしょ

(32) joojaku deekuni nugi-jabit-a-N
 やっと 大根 抜ける-POL-PST-IND
 やっと大根が抜けました。

略号一覧

略号	意味	略号	意味	略号	意味
ADD	付加	HON	尊敬	QT	引用
ADJ	形容詞	IMP	命令	RED	重複
ADVL	副詞化	IND	直説	SEQ	継起
AND	連体	INF	連用	SFP	終助詞
CNN	逆接	INT	意図	SG	単数
COND	条件	NEG	否定	TOP	主題
COND2	条件 2	NOM	主格	1	1 人称
CONT	継続	NPST	非過去		
COP	コピュラ	POL	丁寧		
GEN	属格	PST	過去		

引用文献

- ・琉球方言研究クラブ編（1990）『阿嘉方言の音韻体系』琉球方言研究クラブ。
- ・Dixon, R. M. W. 2006. Adjective Classes in Typological Perspective. In Dixon, R. M. W., and Aikhenvald, Alexandra Y. (eds.) *Adjective Classes : A Cross-Linguistic Typology*. Oxford, GBR: Oxford University Press.
- ・Hajek, John. 2006. Adjective Classes: what can we Conclude? In Dixon, R. M. W., and Aikhenvald, Alexandra Y. (eds.) *Adjective Classes : A Cross-Linguistic Typology*. Oxford, GBR: Oxford University Press.

謝辞

本報告に用いた、動詞・形容詞の調査データは當山奈那さん（琉球大学）が調査を代行して集めて下さったものです。この場を借りて御礼申し上げます。調査にご協力いただいた、阿嘉島の与那覇正次さん、垣花武一さん、金城英雄さん、兼島菊枝さん、貴重なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。本文の不備はすべて報告者の責任です。

	縛る	かぶる	寝る	あぶる	漕ぐ	待つ	飛ぶ	遊ぶ	落とす	出す	飲む	食べる
語根	kuNd	kaNd	niNd	aNd	kug	mutt	tub	asub	utus	ʔNzjas	num	kam
グループ	d1	d2	d2	d2	g	t	b	b	s	s	m	m
断定肯定	kuNzjaN	kaNzjuN	niNzjuN	aNzjuN	kuzjuN	muccjuN	tubun	asubun	utusun	iziasun	numun	kamun
否定	kuNdan	kaNdan	niNdan	aNdan	kugan	muttan	tuban	asuban	utusan	ʔNzjasan	numan	kaman
過去	kuNcjaN/	kaNtan	niNtan	aNtan	kuzjaN	muccjaN	turan	asuran	utucjaN	ʔNzjacjaN	nuran	karan
シテ中止	kuNcji	kaNti	niNti	aNti	kuzji	muccji	turi	asuri	utucji	ʔNzjacji	nuri	kari
アリ中止	kuNcji	kaNti	niNti	aNti	kuzji	muccji	turi	asuri	utucji	ʔNzjacji	nurii	kari

	死ぬ	降る	降りる	落ちる	捨てる	掘る	買う	売る	くれる	もらう	食う	酔う
語根	sijn	fu	uri	uti	sjiti	fu	koo	u	kwi	ii	kwa	wii
グループ	n	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1	母音1
断定肯定	sjinun	fuin	urin	utiin	sjitiin	fuin	kooiin	uin	kwiin	iiin	kwaain	wiain
否定	sjinan	furān	uriran	utiran	sjitiran	furān	kooran	uran	kwiran	iiran	kwaan	wiiran
過去	sjizjaN	futan	uritan	uttan	sjittitan	futan	kootan	utan	kwitan	iitan	kwatan	wiitan
シテ中止	sjizji	futi	uriti	utti	sjittiti	futi	kooti	uti	kwiti	iiti	kwati	wiiti
アリ中止	sjizji	futi	uriti	utti	sjittiti	futi	kooti	uti	kwiti	iiti	kwati	wiiti

	洗う	閉じる	起きる	いる	切る	蹴る	着る	座る	見る	言う	ある	ない
語根	ara	kuu	uki	u	ki	ki	cji	ii	mi	i		
グループ	母音1	母音1	母音1	母音1	母音2	母音2	母音2	母音2	母音2	母音2	不規則	不規則
断定肯定	arain	kuuin	ukiin	un	kiin	kiin	cjiin	iiin	miin	iiin	an	neen
否定	araaran	kuuran	ukiran	uran	kiran	kiran	cjiran	iiran	miran	iran	neen	an
過去	araatan	kuutan	ukitan	utan	kiccjaN	kiccjaN	cjicjootan	iicjaN	micjaN	icjaN	atan	neentan
シテ中止	araati	kuuti	ukiti	uti	kiccji	kiccji	kiccji	iicji	micji	icji		
アリ中止	araati	kuuti	ukiti	uti	kiccji	kiccji	kicji	iicji	micji	icji	ati	neen

	行く	来る	する
語根	不規則	不規則	不規則
グループ	不規則	不規則	不規則
断定肯定	icjuN	cjuuN	suN
否定	ikaN	kooN	saN
過去	ʔndaN	cjaN	saN
シテ中止	ʔNzji	ccji	sji
アリ中止	ʔNzji	ccji	sji